

全国保健師長会千葉県支部だより

令和4年度 第2号 令和5年1月31日発行



1 千葉県支部長あいさつ

全国保健師長会千葉県支部会員の皆様には、令和4年度も支部活動への御協力をいただきありがとうございます。保健師長会の活動も大きな行事は終えまとめの時期に入っています。

通常の活動にはまだ遠いところですが、少しずつ活動を再開させていきたいと思っております。

引き続き皆様の御協力をお願いいたします。

千葉県支部長 野澤憲子

2 令和4年度 全国保健師長研修会報告(主催＝滋賀県、日本公衆衛生協会) 令和4年11月25日(金)

今年度はハイブリッド形式での研修会が滋賀県にて開催され、会場参加約60人、オンライン視聴数は約1700人でした。

テーマは、「これからの保健師人材育成～コロナ禍の保健活動から考える～」。4人の講師による講演と、3自治体の人材育成実践報告がありその概要を報告します。(松戸市 村岡)

講演Ⅰ「地域保健をめぐる国の動向」厚生労働省健康局健康課保健指導室 室長 五十嵐久美子氏

- ・保健師活動指針の10項目の基本的方向性は、現場のコロナ対策にも当てはまる。
- ・令和4年度保健師活動領域調査の結果より、自治体保健師数は年々増加しているが、年齢階級別で見ると、今後、都道府県の管理期保健師の人数が十分でなくなる中で、人材育成・人材確保が課題。
- ・今年度、市町村保健師の管理者能力育成の推進に向けたアドバイザー支援事業を立ち上げた。



講演Ⅱ「コロナ禍での公衆衛生活動、これからの保健師活動への期待」滋賀県健康医療福祉部 理事 角野文彦氏

- ・健康づくりにおいて感染症対策は常に必要であり、すべての保健師に感染症の知識が求められる。
- ・コロナの3年間を振り返り、有事に備えることが必要。従来の事業を評価するチャンスでもある。

講演Ⅲ「これからの保健師活動に求められること」全国保健師長会 会長 松本珠美氏

感染症対策に従事できる保健師が求められる中、経験の浅い保健師の増加や中堅保健師の減少などによって、OJTやジョブローテーションについてもこれまでのやり方を転換させるべき時代となる。

講演Ⅳ「これからの保健師の人材育成～コロナ禍の保健活動から考える～」武蔵野大学地域看護学 教授 中板育美氏

- ・新型コロナ禍でもPDCAを回し、個別の支援を止めず、その集積から地域の課題や実態を捉えて関係者らとともに協議し、課題解決を目指す能力の向上は不動のもの。
- ・地域住民の健康を守るバックボーンとして、感染症の知識は必要。
- ・ウイズコロナでの人材育成では、エンゲージメントが欠かせず、エンゲージメントを向上させるためには自治体のビジョンに向かって能動的に行動できる保健師活動が求められる。目的・目標を明確にし、自治体のビジョンとつなぎ合わせる、アウトプットに留まらず、アウトカムを出していくことの御手本を日常の活動の中で見せていく。
- ・保健師の支援において、過大な情緒的関与はバーンアウトのトリガーとなるが、職務特性である共感性は否定しないほうが良い。感じ方やその表現の仕方には、個性や多様性があることを容認する職場風土を醸成し、OJTの手を抜かないこと。

人材育成の実践報告では、「滋賀県は県・市町の保健師を含むガイドラインを策定し組織的な人材育成に取り組んでいる」「滋賀県大津市はコロナ禍においても質の高いサービスを提供するため乳幼児健診事業の再構築を行った」「広島県三次市は統括保健師の位置づけをガイドラインや事務分掌まで掲載し、市長まで周知し市の体制とし取り組めるようにした」などの報告がありました。

3 令和4年度 代議員総会報告(主催＝滋賀県、日本公衆衛生協会) 令和4年11月26日(土)
ハイブリッド開催され支部からはオンライン参加で4名の代議員が出席し、議事すべて可決されました。
総会研修の概要を報告します。* 資料は、全国保健師長会ホームページに掲載されますので是非ご覧ください。

講演「新型コロナ対応を踏まえた健康危機管理体制の整備に向けて」講師 厚生労働省健康局健康課保健指導室長 五十嵐久美子氏
・感染症法の一部改正について、自治体と保健所設置市との連携強化を図るため「連携協議会」の創設を求めた事、地域性を踏まえた計画を策定すること、市町村に生活支援や健康観察の協力を求められること、IHEATによる保健所体制の強化を図ること、衛生研究所の機能強化を図ることなどが盛り込まれる予定であること等の話がありました。
・また、リーダー保健師が有事にリーダーの役割が果たせるようにする、マニュアルの整備を図る、組織体制のマネジメント、人材育成などを行うことの大切さ等。

基調講演 保健師を継続する～コロナ禍の保健活動を経験して～ 講師 富山県立大学看護学部 佐伯和子氏

コロナ禍における保健師活動の経験(DO)の意味をおさえる、優先業務の選択、過重な労働環境の中で労務管理の重要性を支え合える環境づくり、困難と苦勞を乗り越えてつかんだ保健師の使命とアイデンティティの確立をし、コロナ対応からの学びを総括することが大切であるとの話がありました。(組織のネットワーク、非常時の業務管理、危機時の労務管理、デジタル ICTの活用等)

実践報告 大阪市におけるコロナ禍の保健活動 保健所と各保健センターとの連携により患者支援を行った報告
滋賀県におけるコロナ禍の保健活動 管理職保健師として(次長)第1波～7波までに果たした役割

4 令和4年度 全国保健師長会千葉県支部第1回研修会 令和4年12月11日(日)13:30～15:00
対面で実施し、20名の方に参加いただきました。参加者のアンケートから、対面で久しぶりに会えた方と交流もでき、講演を聞いて元気がでて、職場にも広めたい等の声をいただきました。その概要についてお伝えします。

講演「対人援助に必要なエネルギーチャージ～セルフ・コンパッション～」講師 埼玉県立大学 教授 秋山美紀氏
ポジティブ心理学を日々の対人援助職自身のセルフケア・組織に生かすために必要なことについて実践を交えて学びました。
・**ポジティブ心理学とは?** 対象者へのケアを豊かにする。対人援助者自身が健康と幸せに目を向けることが大切。
・**レジリエンスとセルフコンパッション** レジリエンス(回復する力、心が折れない力)は筋肉と同じように鍛えることができる。
思いやりはエンパシーとコンパッションの2種類あり、エンパシーは同情であり、援助者は対象者と同じように痛みを感じてしまい良い関係は結べない。一方コンパッションは対象者の感情に巻き込まれることなく、温かく愛に満ちた感情であり、対象者の痛みを理解することができるが、それは援助者自身の痛みとはならない。共感疲労にならないために自分自身への思いやりが大切であり、それを「セルフコンパッション」という。
セルフコンパッションには3つの要素「自分に対する優しさ」「共通の人間性(人間として生きる上で他者と繋がっている感覚)」「マインドフルネス(その効果は不安、うつ、仕事・家族や感情のストレス、不眠他からの軽減)」がある。
・**まわりに感謝する** 欧米では看護職への感謝の介入が注目されている。(感謝の手紙を書いたり、2週間の間に1日の中で良かったことを3つ挙げたりしたところ、バーンアウトの症状が軽減)わが国でも感謝の介入をしていくことが望ましい。

5 令和4年度千葉県支部会費の活用について

皆様からの御意見をもとに役員会で検討し、500円分のクオカードを配布することになりました。
3月中旬にはお手元に届くよう準備中ですので、リフレッシュや自己研鑽に御活用ください。

6 令和5年度全国保健師長会千葉県支部総会について

令和5年度の総会は、コロナが5類に移行するのを見込んで令和5年5月下旬頃、研修も併せた開催を目指して準備を進める予定です。会員の皆様におかれましては、引き続き御入会いただけますよう、また新たなお仲間を誘っていただき保健師長会の活動がますます活性化できますよう御協力をお願いします。

新型コロナウイルス感染症は春には5類へ移行とのニュースに、ホッと一息つけそうな新年度ですが、各所属では、様々な対応があり、疲弊している日々をお過ごしのこととと思います。どうか保健師長会が皆様にとって活動の共有ができる場となりますように祈って第2号をお届けします。

..うきうきすることを見つけに さあ、みんなでがんばろう ぎゅっと団結しながら.. 文責:村岡・出井

